ユーザーレポート

User Report

～0の証明～

トラック

■ 株式会社りゅうせき

離島など遠隔拠点でも“緊張感”ある体制づくりで全社員の意識改革に取り組んでいます。

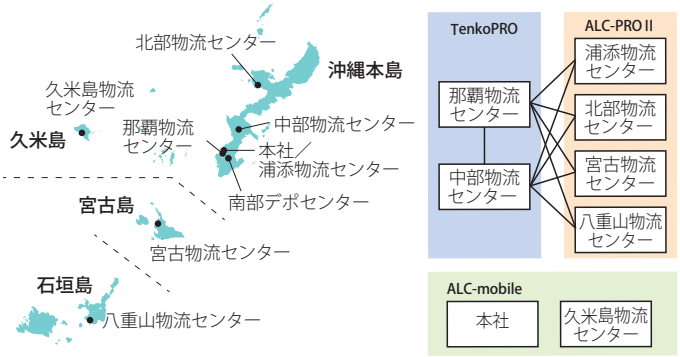
飲酒運転ゼロを維持し、運送業務の安全性を向上させるためには、システムや制度の改善と同時に、従業員の意識改革が欠かせません。そのための方法として、TenkoPROを2台導入し、独自に運用制度を工夫しておられる株式会社りゅうせきの上江洲様にお話を伺いました。

ご利用機器

ＩＴ点呼システム
TenkoPRO

携帯電話連動 記録型測定器
ALC Mobile

パソコン連動記録型測定器
ALC-PROⅡ



“伝統”ゆえの苦労

お酒でもてなす文化。それを否定せず、かつ自己管理意識をどう高めるか

上江洲氏：沖縄県はご存知の通り、本島以外に宮古、石垣など多くの離島があり、島ごとに独自の地域社会を形成しています。また、祭り事にお酒が欠かせない風習も色濃く根づいています。もちろんそうした文化を否定するつもりはありません。しかし、りゅうせきグループは「県内全域に石油・ガスを安定供給する」という社会的使命を担っており、会社として、公私をしっかりと分けて業務に臨む姿勢を、個々人に定着させなければなりません。一連の法律改正以前から、業務・安全担当として様々な取り組みをしてきましたが、アルコールチェック体制の甘さを明確に否定できる状況ではありませんでした。チェックする人もされる人も、“同じ島の住人”であるがゆえ、本社と離島の拠点が海で隔てられているがゆえに、制度と実際の運用がかみ合っていなかったのです。

取材ご協力

株式会社りゅうせき

業務・安全担当課長　**上江洲　剛** 様

〒901-2122
沖縄県浦添市勢理客4-20-6
TEL 098-875-4722 FAX 098-875-4717
URL http://www.ryuseki.co.jp/rogicom/

通信の魅力

本島と離島拠点をTenkoPROで結び対面に近い“緊張感”で安全意識を醸成

上江洲氏：TenkoPROに着目したのは、通信インフラさえあれば、離れた拠点間でも法令に則った点呼ができる点でした。もっと言えば、離れているからこそ、ドライバーにも“馴れ合い”では済まされない緊張感が生まれるのでは…と。また、2台導入したのは、台風停電時などのリスク管理と同時に、社員の緊張感を持続させるため。TenkoPROを那覇と中部に、ALC-PROⅡを浦添、北部、宮古、八重山の４拠点に配置し、毎日、那覇と中部いずれかの運行管理者が交代で、全拠点との点呼を行っています。

ただし、こうしたシステムや制度を整えても、それだけでは十分とは言えません。万一アルコールが検知された時の対処・処遇・評価方法を制度化したほか、安全運転に関する社内報の定期発行や、全社員対象の運転記録証明書提出…。業界主催のトラックドライバー技能コンテストにも積極的に参加するなど（県代表に選ばれ、５年連続で全国大会出場）、多面的な活動を地道に続けることで、安全意識が全社へと浸透していくものと考えます。

旧りゅうせきロジコム単独でこのような体制を作ったのですが、母体となるりゅうせき本社から担当者が視察に訪れるなど、注目度合いが高まってきました。当社グループは、沖縄の地域経済全体をエネルギー面から支える企業と自負しておりますので、安全対策においてもそれに恥じない、信頼される体制づくりをさらに推し進めていきたいと考えています。

取材後記　株式会社りゅうせきでは、トラック５台未満の久米島と本社にもALC-mobileを導入し、委託運転手や運転手以外の従業員もアルコールチェックを実施している。離島の弱点を逆手に取った発想は、遠隔拠点を多く持つ企業にとって、参考となる示唆が多い。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。